

神の安息へ入れ ヘブル 4:6-13

2025. 1. 5、丘の上 NO. 741
春日部福音自由教会 山田豊

2025年、明けましておめでとうございます。本年も説教要約へのお付き合い、よろしくお願いいたします。

元旦、初詣の人たちが願うのは、「家内安全商売繁盛」でしょう。これはキリスト者も、同じではないでしょうか。自分も含め家族が平安であり、商売に限らず自分のしていることがうまくいくように、ますます反映するように、とはだれもが願うことです。

しかしながら、昨年はお正月に大きな地震が起きました。今もなお復旧、復興のままならないうちに新しい年となり、心安らげる場所を求めている方がおられることを思うと、まことに辛くなります。

神はこの世界を6日間でおつくりになり、7日目には休まれました。このことが、ユダヤ教においては週の最後の日、土曜日が休みの日、安息日となる起源です。神は人間に、休息をお与えになったのです。

ところが旧約聖書を見ると、神に対する不従順の故に、神の安息に入れなかったと記されているのです。エジプトから脱出し(エクソドス)、約束の地に入るのに40年もかかったのは、民の先遣隊が探った日数が40日間だったことによるのです。また、メリバというところで神と争い、心を固くしてしまったのです。この辺りのことは、民数記14~21章を参照していただきたいと思います。ダビデもこのことを、詩篇95にあらわしています。人は、神の与えてくださった休息、平安を、自らの過ちによって失ってしまいました。それが今日の私たち罪ある人間の表れの一つとなっているのです。十分な休息、安息がなければ体は動かず、心と魂に平安がなければ、幸いな日々を送れないのです。

しかし9節によれば、安息日の休みは神の民のためにまだ残っている、というのです。なんと幸いなことでしょうか！それは、イエス・キリストの生涯、十字架と死、そのあとの復活によって与えられた平安です。ヘブル人への手紙は、大祭司であるイエス・キリストについて書かれた書簡です。私たちを同じような苦しみを受けた主イエスが、父なる神にとりなしてくださっているのです。大祭司としての祈りをささげる前に、こういわれました。

わたしはあなたがたに平安を残します。わたしの平安を与えます。ヨハネ 13:27

この世の平安や家内安全に勝る、神の安息がイエスによって今与えられているのです。

引用聖句

民数記 14:34 おまえたちが、あの地を偵察した日数は四十日であった。その一日を一年と数えて、四十年の間おまえたちは自分の咎を負わなければならない。こうして、わたしへの反抗が何であるかを思い知ることになる。

民数記 20:13 これがメリバの水である。イスラエルの子らが【主】と争った場所であり、主はご自分が聖であることを彼らのうちに示されたのである。

創世記 2:2-3 神は第七日に、なさっていたわざを完成し、第七日に、なさっていたすべてのわざをやめられた。

創世記 2:3 神は第七日を祝福し、この日を聖なるものとされた。その日に神が、なさっていたすべての創造のわざをやめられたからである。

ヨハネ 14:1 「あなたがたは心を騒がせてはなりません。神を信じ、またわたしを信じなさい。

ヨハネ 14:27 わたしはあなたがたに平安を残します。わたしの平安を与えます。わたしは、世が与えるのと同じようには与えません。あなたがたは心を騒がせてはなりません。ひるんではなりません。

新聖歌 252「安けさは川のごとく」

「It Is Well With My Soul」(邦題:「たましい安かれ」または「平和は川のように」)は、賛美歌作家ホラティウス・スパフォードによって書かれ、フィリップ・プリスによって作曲された賛美歌です。この曲は、アイラ・サンキーとプリスによる『ゴスペル賛美歌第2巻』(1876年)に初めて掲載されました。プリスの作品群の中でも最も影響力があり、長く愛され続けている作品の一つで、多くのキリスト教団体の賛美歌集に収録されており、合唱のモデルとしてもしばしば引用されます。

背景

この賛美歌は、スパフォードの人生における悲劇的な出来事をきっかけに作られました。最初の出来事は、1871年の「シカゴ大火」で、スパフォードの財産が失われました(彼は成功した弁護士であり、シカゴの大火で広範囲に被害を受けた地域に多額の不動産投資を行っていました)。さらに1873年の経済不況により、彼の事業はさらなる打撃を受けました。その年、スパフォードは家族とともにイギリスへ旅をする予定でした。この旅はドワイト・L・ムーディの布教活動を支援するためでしたが、出発直前にシカゴ大火後の区画整理に関する業務で遅れ、妻アンナと4人の娘たち(アニー、マギー、ベッシー、タネッタ)を先に船(SS ヴィル・デュ・アーヴ号)で向かわせました。

大西洋を横断中、同船はロッホ・アーン号と衝突し、急速に沈没しました。この事故で226名が命を落とし、スパフォードの4人の娘も犠牲となりました。[2]生き残った妻アンナは、スパフォードに「ただ一人助かりました…」という有名な電

報を送りました。その後、悲しみに暮れる妻に会うためイギリスに向かう船上で、スパフォードは4人の娘が命を落とした場所の近くを通過した際、この賛美歌の歌詞を書きました。[3] ブリスは、この曲に犠牲となった船の名前「ヴィル・デュ・アーヴ」を付けました。

(英語版ウキペディアからの日本語訳)



沈没するヴィル・デュ・アーヴ号

河村まなみさんによる伴奏→[新聖歌 252 番「安けさは川のごとく」](#)

ブログのBGMで使用しています

「It Is Well With My Soul」の日本語訳を以下に示します。歌詞の翻訳には賛美歌の文脈や原文の詩的な表現を尊重し、できる限り忠実に翻訳しました。

たましい安かれ

第1節

平和は川のように、私の道流れ、
悲しみは波のように押し寄せるとき、
何があっても、あなたは私に言う、
「たましいよ、安かれ。」

コーラス

たましいよ、安かれ、
たましいよ、安かれ、
たましいよ、安かれ。

第2節

サタンが私を襲おうとも、試練がやって来ようとも、
この祝福された確信を持つことができる、
キリストが私の罪を背負い、全てを赦し、
彼の血が私のために流された。

コーラス

たましいよ、安かれ、
たましいよ、安かれ、
たましいよ、安かれ。

第 3 節

私の罪—その全ての部分—が十字架に付けられ、
もはや私を縛ることはない！
主よ、魂から叫びます、
「主よ、あなたを讃えます！」

コーラス

たましいよ、安かれ、
たましいよ、安かれ、
たましいよ、安かれ。

第 4 節

主の日が来る、信仰が見える日が、
雲が引き裂かれ、ラッパの音が鳴り響き、
主が降りて来られる！
私のたましいよ、安かれ。

コーラス

たましいよ、安かれ、
たましいよ、安かれ、
たましいよ、安かれ。